

駅西 グランドデザイン

問合せ 役場企画政策課

令和3年度の
検討内容を
報告するよ



駅西グランドデザインて何？

名鉄知多武豊駅西グランドデザイン（駅西グランドデザイン）は、名鉄知多武豊駅と JR 武豊駅周辺を含む都市拠点と、武豊中央公園周辺の公共交流拠点を含む、対象区域のまちづくりの方向性を明らかにする概ね 20 年先を見据えた長期ビジョンです。令和 3～4 年度の 2 か年で策定します。

魅力あるまちづくりを目指すエリア （検討の対象区域）

④緑豊かな住宅地エリア

既存の垣根等、緑豊かで環境にも配慮した住宅エリア

①駅前居住エリア

多様な世代の住居ニーズに対応したまちなか住居エリア

にぎわいシンボル軸

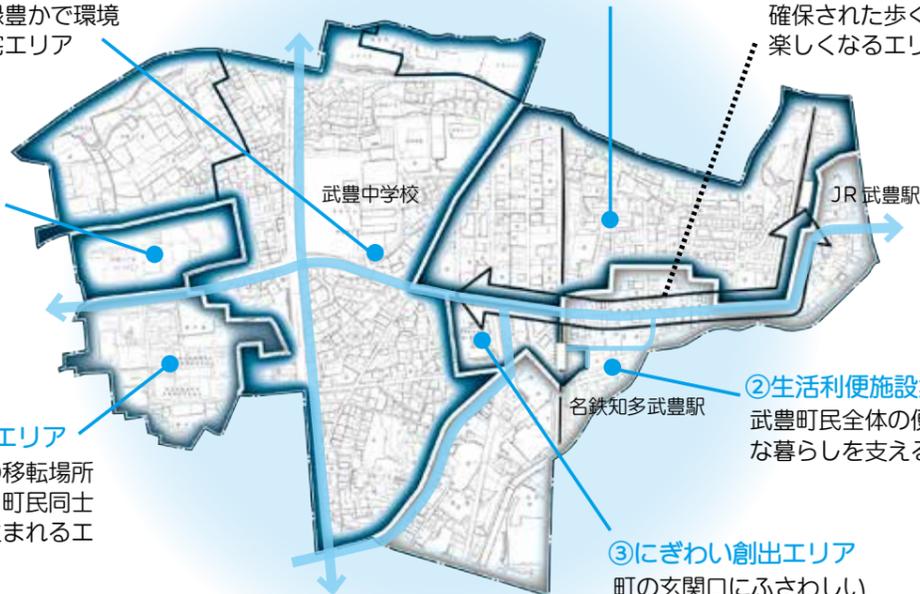
歩行者がくつろぎ、憩うことができる空間が確保された歩くことが楽しくなるエリア

⑤武豊中央公園

多くの町民が集う公共交流拠点に位置付けられる公園

⑥公共機能集積エリア

将来の公共施設の移転場所の候補地として、町民同士の豊かな交流が生まれるエリア



②生活利便施設集積エリア

武豊町民全体の便利で快適な暮らしを支えるエリア

③にぎわい創出エリア

町の玄関口にふさわしいにぎわいあふれるエリア

都市拠点

まちの中心として商業・サービス・住居等の機能が整い、住民や来訪者にとって魅力のある拠点

公共交流拠点

様々な住民が意欲的に交流し、関わりながら、公共施設や公園・緑地等が充実するまちづくりを目指す拠点

まちを良くするにはどうしたらいい？

対象区域の主な課題を整理しました

- ・対象区域内の人口および世帯数は横ばいで推移し、停滞している
- ・近年、目立った建築が見られず区域内において建物（戸建、アパート等）の更新が進んでいない
- ・区域内に同時期に整備された公共施設の老朽化が懸念される
- ・駅周辺において空き地や青空駐車場が多く、有効な土地利用が進んでいない
- ・名鉄知多武豊駅西口では駅前広場（ロータリー）が整備されておらず、さらに一方通行等により車でのアクセスがわかりにくい

対象区域への住民のニーズは？

令和 3 年度は、対象区域の住民を対象としたアンケート調査や名鉄知多武豊駅の利用者アンケート調査また武豊中央公園利用者アンケート調査等を行いました

将来の **駅周辺** のまちづくりへのニーズ
（駅利用者アンケート調査より）

- 1 位 日用品の買い物が便利
- 2 位 飲食を楽しめる
- 3 位 歩いて散策を楽しめる



将来の **中央公園周辺** のまちづくりへのニーズ
（武豊中央公園利用者アンケート調査より）

- 1 位 多目的に利用できる広場等が確保され、ゆっくり過ごすことができる
- 2 位 イベントが開催され、町民が交流できる
- 3 位 豊かな緑を感じることができる



A 班



- ・まちの顔として駅に降り立つと「武豊に来た」と実感の持てるまち
- ・ゼロカーボンシティを先導できる場所を設定する
- ・若者の起業を応援できるハード＋ソフトの仕組み
- ・プレイパーク、自然体験型公園
- ・SNS 等で住みやすさ PR
- ・オシャレな休憩スペース設置



B 班



- ・駅前でストリートミュージック
- ・マルシェができる芝生広場
- ・カフェ等毎日立ち寄れるお店
- ・歩道を広げて散歩と休憩スペースとしての活用
- ・自動運転 EV バスでピストン輸送
- ・アーケードで雨天時もウォークブル



C 班



- ・みゆき通りの道路を活用してチョークでお絵描き、むかし遊び、大道芸体験等
- ・手作り菓子、お総菜が買えるキッチンカー
- ・若者が集まれる場、スケートボードができる場
- ・未来型の公園（畑）に町民がかかわり作る花、果樹、野菜等
- ・役場のとなりにカフェ、レストラン、民と官をつなぐエリア
- ・わかりやすい案内板



駅西グランドデザイン策定委員会：委員として日本福祉大学教授や中京大学講師、武豊町商工会長、名鉄、公募住民の 10 人のほか、オブザーバーとして県都市計画課等の 4 人の総勢 14 人で構成されています。令和 3 年度は策定委員会を 2 回開催しました。

令和 4 年度の今後の検討は？

- ・20 年先の対象区域のまちづくりを見据え、主な取組をまとめます
- ・駅西グランドデザインの実現に向け、ロードマップ（短期、中期、長期のスケジュール）をまとめます
- ・駅西グランドデザインの素案を公表して、パブリックコメントを実施し、広く住民からご意見をいただきます